

(様式第4号)

上田市地域情報化推進委員会 会議概要

1	審議会名	上田市地域情報化推進委員会
2	日時	令和8年1月29日 午後1時00分から午後2時00分まで
3	会場	市役所本庁舎 4階 庁議室
4	出席者	小林一樹会長、大森美和委員、合原亮一委員、中村和己委員、増澤宗委員、水野泰雄委員、瀬島千恵子オブザーバー（総務省信越総合通信局情報通信部長）
5	市側出席者	土屋市長（答申）、大矢政策企画部長、市村 DX 推進課長、徳田情報システム課長、樫本スマートシティ化推進マネージャー、片山 DX 推進課係長、村田情報システム課係長、坂口情報システム課係長、松尾 DX 推進課主査、中村情報システム課主事
6	公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7	傍聴者	0人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	令和8年1月30日

協 議 事 項 等

1	開会
2	あいさつ
3	会長あいさつ
4	議事 上田市スマートシティ化推進計画の策定について ○事務局から説明 ・ 計画案 最終確認 前回の協議会での意見を反映した修正箇所の説明及び確認 →意見なし ・ 答申手順確認
5	その他 ・ 事務連絡
6	答申 ・ 小林会長から土屋市長へ手交 ・ 概要説明 【会長】 委員の皆さんの上田に対する思いが強く、協議の際、様々な意見が出た。 この答申では方針を決めるということで、どういう方向にしていって上田市が良くなるのかということで議論を重ねてきたが、様々な各論のような話が出てきた。 現在、テクノロジーの進化が非常に速いので、少し一歩引いて眺めて、それが本当に定着するかなどを考えた時に継続可能であるのかとか、本当に市にとって長期的に見た時にメリットがあるのか、そういうことを考えて取捨選択する必要があるのではないかと思う。 AI などの便利さとは、それによって失われるものがあり、トレードオフだとは思いますが、必ずそういうものは普及していく。行政の方でどう活用していくかを考えないといけないと思う。一方

で、誰でもできるようなことはAIに任せていくということは必ず出てくるので、その辺のバランス感覚が取れるとよいと思う。こういった話も協議の中で出た。これらを踏まえて、今回策定した計画案に反映されているものになっている。

【事務局】 資料を基に概要説明

5年間スマートシティ化を推進する指針として、計画を策定している。

【市長】 計画案策定、答申に対し、お礼のあいさつ

・懇談、写真撮影

【委員】 上田に住んでいる皆さんの思っているのは非常に感じる議論が多かったと私も感じた。

普段の生活の中で、もうちょっと利便性が高い方がいいなと感じる場面も多々あり、そういうことを意見として述べた。業界団体の推薦ということで参加している面もあり、上田市のインフラの維持管理やそういう部分でも少しDX化が推進されるよう、意見した。この計画の中にも元来からそういう部分が含まれているので、この計画がさらにアップデートされていくことを願っている。

【委員】 このスマートシティ化推進計画の現計画は、将来に向けてどうなっていくのかという部分の計画性において、世の中の変化が激しくて、このように計画を立ててもなかなか変更できず、実情に合わせていってしまうのかという部分があった。けれども、目指すところはどこだというものがないと、私たちは何をやっているのかと迷ってしまうので、しっかりした方針は最初で作るべきだということは今も変わってないと思う。一番は、それで我々は上田市民として幸せになっているのかということ。みんながよく言う「スマートシティになって、スマートになって、予算がスマートになっている」という部分と、各論みたいな部分ばかりが出てきて、どこに向かっていくのかが分からなくなる。そういった部分は我々この会議で何回か協議し、次期計画として一番の部分ではできたと思う。それをどう実行に移していくかが大切になってくるが、職員の皆さんはもちろん、我々も協力していこうという話だと思う。

【委員】 子ども関係や国際に関することが話題に入っていくやすい角度だが、会長からも話題にあがったAI。今、全般に言えると思うが、AIがとにかくいい仕事をするという時代になっている。勝手にどんどんどんどん添削していく、かなり高い精度で翻訳も出てくる。ただ、本人の力でないことが多分にある。授業の際、学生に対して、1から100まで全部やる必要はないが、うまく共存できる力というのは必要だということを伝えている。

普段の生活の中でも、世界とDXで時差もなくコミュニケーションできる時代が本当に身近に感じてきている。私たちの生活全体がより便利になり、また世界に近い形になっていくことがとても楽しみであり、また期待するところでもある。

【委員】 目指すところというと、結局効率を上げるということだけだと私個人的には思うが、所詮ツールであって、何を使うかではなく、仕事が楽になって、いろいろなことが簡単になって、できることが増えていくという事を目指していけば良い。かつ、上田市が他の地域より一歩先んじて、実

現していくために活用していくことが大事なので、是非そういった方向で上田市の皆さんも協力していければ良いと思う。

【委員】 今回、これだけやった議論だが、AI の技術が簡単にやってしまうようなことになる時代がすぐ来るのではと思っている。放送業界では、動画も AI を活用していて、今年、一気に進むだろうと言われている。便利になって世の中つまらなくなるよね、という話もある。効率の悪いところに美意識を求めたり、価値があったり、付加価値があるという時代が、この後に来るのではないかと思う。そうすると、このスマートシティ化という言葉は、この後この委員会で議論するのは、どう人を育てるとか、どう奥行きのある人間を育て、AI の時代をきちんと生きていくかというような、そういったところに議論の中心が移っていくのではないかと会長の話を聞きながら思った。是非この DX、ただのデラックスにならないように、上田市の皆さんで使っていってもらえればありがたいと思う。

【オブザーバー】 協議の中、皆さんの上田に対する思い入れは、すごく聞こえてきていて、上田をどうやって良くしていこうか、どうやってこれからの良い方向に持っていこうかということをしごく熱く議論されているのが伺えた。その時々でいろいろな技術を活用しながら、どんな良い方法があるかというのは、今後ロードマップを作成する上で議論されていくのだと思う。今後のロードマップ、まさにそれが大切になってくると思うので、引き続き信越総合通信局として協力できることをしていきたいと思う。

【事務局】 会長の話のように、AI を使うと便利なところはどんどん使っていってもらいたい。仕事の効率化が図れるようなところでは、市役所の中でも若手職員は使っている。ついていく我々がちょっと大変で、委員の話にもあったが、使う本人がしっかり内容を理解する力をつけた上で活用していくという点も大事ということを改めて考えた。今回、皆さんに議論いただいたこの計画をもとに、今後、具体的なロードマップを作ってくの、また皆さんには引き続きご支援、ご協力お願いしたい。

【市長】 技術を使うということは大事なことで、点字図書館の関係で話をしてきたところだ。上田の点字図書館は、長野県で唯一の点字図書館なのだが、点字にすることは大変な労力が必要で、墨字（すみじ）をスキャンして点字図書にしていくそう。いろいろな技術があり、視覚障がい者の皆様の役に立っている。他にも、農業についても田植えや稲刈りが自動化されているとも聞くが、いま、様々な事に活用されていることを感じる。

この計画には、いろいろな分野が多分にあるが、積極的に進めていきたいと思っており、ご指導等々よろしくお願いしたい。

【会長】 まだ AI 使ってないっていう方がいたら、ぜひ使って欲しい。市長は使ったことありますか、チャット GPT とか。

【市長】 使ってもらったのを見たことはあります。

【会長】 自分で使うと実感が湧くので良いと思う。注意してほしい点として、今のAIは、すごく人間らしいことができるが、AIは人間の言葉を学習しているだけなので、人間が書いたものや言ったこととかを詰め込んで、人間が言いそうなことを言う。人間の感覚的な部分を学習しているわけではない。我々はそういうことを理解した上で、もっと想像力を働かせて使っていくことが必要。やはり方向性などを考えるには人間力が大事で、それをAIに支えてもらうという形が一番良いと思う。

7 閉会